



仁淀病院からのお知らせ

仁淀清流苑における リハビリテーションの取組



仁淀清流苑支援相談員 中山 雅子

施設の生活では、リハビリテーションは二つの面から実施していきます。まず一つは生活リハビリです。日常の生活を行う中で、食べる、起きる、着替える、歩く、車いすを駆動する、排泄するなど行動すべてがリハビリにつながっていきます。日常生活の中でケアスタッフが付き添って行う立位訓練や歩行訓練、食事を少しでも自分で食べていただけるように食器やフォークなど使用物品の工夫をしたり、食事時の姿勢の指導、個々の機能に応じて生活の中で取り入れられるリハビリを、専門のリハビリスタッフと共に検討します。このようにして毎日の繰り返しの中で介助量の軽減や自立していくことを目指します。

二つ目はリハビリスタッフが行う、個別訓練があります。リハビリスタッフは入所や通所サービスの利用開始時、心身機能の

評価を行います。ゆっくりと利用者に向き合い、本人の持つ機能について評価を行い、在宅での生活状況も考慮してリハビリテーション実施計画書を作成します。個別に作成した計画書は利用者に説明し、同意の上で訓練が始まります。ほとんどの利用者が積極的にリハビリに取り組んでいます。在宅に向けて、あるいは在宅が難しくなった場合や、寝たきり状態になっても、できる限り残存機能が維持でき、元気で過ごしてもらえるように取組を行っています。



居宅介護支援事業所「によど」のご案内

仁淀清流苑の建物の中に、居宅介護支援事業所「によど」があります。ここでは、ケアマネジャー2名(常勤)がおり、要介護状態になっても住み慣れた自宅で、安心して暮らしていくために必要なサービスが受けられるようにケアプランの作成を行っています。ご本人、ご家族はもとより、関係するサービス提供事業所と密に連携を取り、生活の質をより良いものにできることを目指します。介護のことでお困りなことがある方は遠慮なくご連絡ください。

居宅介護支援事業所「によど」 中村理津子
連絡先 ☎ 850-4358



いの警察署からのお知らせ



いの警察署 ☎ 893-1234

我が国を国際テロから守るため、 県民の皆さんのご理解とご協力を！

警察では、一度発生すれば多くの犠牲者が出るテロを未然に防止するため

- テロリストを入国させない
- テロリストの拠点をつくらせない
- テロを起こさせない

ことを基本として各種対策に取り組んでいます。

県民の皆さんが日ごろの生活の中で、不審人物や不審物を見かけた場合には、ちゅうちょすることなく、できるだけ早く警察に通報して下さるよう、ご理解とご協力をお願いします。

